

平成26年度

学校経営計画（スクールマネジメントプラン）  
（ 実施段階 ）

【 10月前期 中間評価 分掌 】

京都府立東稜高等学校

## 平成26年度 府立東稜高等学校 学校経営計画

平成26年4月1日

### 学校経営計画（中期経営目標）

- ① 何事にも主体的・積極的に取り組み、自己実現を目指しながら努力するなど、将来社会に貢献できる人間を育成する学校づくりを行う。
- ② 人権尊重の立場に立って、自らを大切にし他を思いやることのできる豊かな心を持った生徒を育成する。
- ③ 生徒の実態を踏まえ、自ら学ぶ学習態度を育成し学習指導の充実強化に努める。
- ④ 基本的生活習慣の確立を図り、自主・自立の態度を備えた生徒を育成する。
- ⑤ 進路指導を適切に行い、個々の進路目標を達成させる。

### 昨年度の成果と課題

- ① 学力向上フロンティア校支援事業における取組を推進することができた。
- ② 学習の基礎・基本を徹底させて学力の向上を目指す「学びの原点」を活用することができた。
- ③ 「サイエンスリサーチシリーズ」「ヒューマンリサーチシリーズ」を継続実施する等、高大連携の充実を図ることができた。また、大学や地域から社会人講師を招いたり、カタリ場や施設見学するなど、キャリア教育に関する行事の一層の充実が図れた。
- ④ 交通安全指導では、交通安全週間に、PTAの役員の方々にも協力していただいた他、地域から様々な情報をいただき、危険箇所については教員とともに山科警察署員の方にも、指導していただいた。また、醍醐十校区自治連合会交通安全推進委員の方々にも協力していただき、交通安全キャンペーンを展開することができた。
- ⑤ 学校説明会、ホームページ、「東稜だより」の定期的発行等を通じて、情報発信を積極的に行い、中学校や地域社会から本校に対する理解をより得られることができた。
- ⑥ 部活動加入率は目標をやや下回ったが、全国大会や近畿大会への出場、また吹奏楽部コンクール小編成の部銀賞授賞などの成果があった。部活動加入率を高め、より多くの部で一層の活躍を期待したい。
- ⑦ 授業公開（授業参観）、研究授業を活用して、授業力の一層の向上を図り、生徒の家庭学習時間の増加や学習力向上を目指したい。

### 本年度の学校経営の重点（短期経営目標）

- ① 「真の自己実現にTRY」をスローガンに「人間力」と「質の高い学力」を育むキャリア教育の推進を継続し、地域と共に育つ学校、確かな進路の実現を目標に特色ある教育活動を実施する。生徒が「伸びる」・生徒を「伸ばす」学校を目指す。
- ② 規律ある集団を育成するための指導を徹底し、安心安全で落ち着いた学習環境を維持し、最後までやり切る・やり切らせる指導を推進する。また、新入生オリエンテーション等をさらに改善し、身だしなみやあいさつを大切にする等社会的マナーの一層の充実を目指す。
- ③ 生徒の学びへの姿勢を向上させ、授業を大切にし主体的に学習に取り組むことで、学習時間の伸張を図り希望進路の実現を目指す。
- ④ 生徒の心身の発達や健康の増進を図るため、教育相談・特別支援教育体制の充実を一層図る。
- ⑤ 部活動等の特別活動の一層の活性化と競技力の向上を図る。
- ⑥ 保護者や地域に積極的に情報を発信するとともに、「選ばれる学校」「開かれた学校」をめざし地域貢献・地域との交流を、積極的・継続的に実践する。また、地域社会及び小・中学校との連携を一層推進する。
- ⑦ 土曜授業の成果と課題をふまえ、内容の充実を図り、平常の授業と課外活動のバランスと充実を目指す。



評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	様々な教育活動を、全教職員の共通認識のもと、一致協力して推進していける体制をさらに充実させる。	教職員間での挨拶の励行等を実践し、建設的な意見交換を活発に話しやすい明るい職場づくりを構築する。 各事業・各行事等の窓口と役割分担を明確にし、情報の共有化を図り、各分掌間の連携を深める。	A	B	朝の打合せ会の簡素化及び内容伝達の方法が定着化しつつあり、教職員同士の打合せにおける挨拶の励行が実施できている。校内内規の全面見直しと現行に併せた改訂版の作成ができた。 総務企画部・キャリア系教科担当者を中心に各事業の取りまとめ、副校長から外部に対する広報資料の発信は、昨年度に続き活発化しているが、事業に対する担当が分掌ではなく人に付いてくるといふ課題解消までには至っていない。HP、学校説明会等の広報活動や各行事への企画参加の記録はしっかりと残せ、将来構想や学校説明会等の資料とし活用できている。
	現在までの特色ある教育活動のバランスを図りながら、類・コースに合った継続した取組として、次年度以降に向けた東稜高校構想を具体化し発信する。	次年度以降に向けて、東稜高校の将来構想に繋げ、さらに取組を充実・発展させるために、キャリア教育推進会議やフロンティア会議、アカデミー推進会議等を積極的に活用する。また、各種事業の継続と発展を図る。	B	B	
教育課程の編成と実施	東稜高校の将来構想に基づいた特色ある教育課程を作成し、次世代の高校制度に対応することを目指す。	類・類型制度の改革に連動して、平成26年度入学生の教育課程を検証し、27年度入学生の教育課程を作成する。	A	A	平成26年度入学生教育課程の検証を踏まえ平成27年度入学生教育課程を編成した。平成26年度に様式改正した「シラバス」と年間行事計画を有機的に連動させ活用することが必要である。今年度の課題を整理して次年度に活かすために、早期の検討を依頼している。
	より使いやすく、実践的に改善された「学習の手引き(シラバス)」の有効活用の促進を図る。	「学習の手引き(シラバス)」を各種オリエンテーション等に有効活用する。 「年間授業計画」の有効活用を研究する。 改訂された「学習の手引き(シラバス)」と「年間授業計画」の有効活用を推進する。	B	B	
学習指導	授業規律を確保し、家庭学習習慣を定着させ、基礎学力の育成を図る。	始まりのチャイムから終了のチャイムまでの50分間の授業を大切にすることをさらに推進する。学年部・進路指導部等と連携して、生徒の授業参加への積極的な姿勢及び学習意欲の維持・向上を図る。 各教科と連携して、基礎学力補充の計画的実施とその内容の充実を図る。	A	B	50分の授業時間確保については十分に定着している。文化祭後には、授業規律を一層確保するため、教科・担任・分掌と連動して指導を強めているところであるが、学習意欲の維持・向上への取組は今後の課題となっている。 基礎学力補充は考査前に計画実施しており、定着しているが、日常的な補充体制の確立が課題である。 研究授業は、今年度から2回に増やし、教科別の他に教科横断方型の研究協議を予定している。また、評価の在り方についての協議・研究を推進しているところであり、教科主任会議で協議し11月の教務研修会でも取り上げる。公開授業については、参加者が増加した。 土曜授業については、円滑に実施されているが、一部クラスで平日より欠席が多いことが課題である。
	「わかる授業」と「適切な評価」についての研究と研修を推進する。	各教科と連携して、授業改善と評価改善の研究を進め、実践する。 公開授業、研究授業のより良いあり方を検討するとともに、教科主任会議等を活用して、評価の改善を進める。	B	B	
	アカデミーコースや第Ⅱ類文理系、第Ⅰ類文理科系の指導を充実させ、学力の伸張を図る。	「土曜授業」の円滑な運営を図り、量的にも質的にも「自ら学ぶ力」の向上を図る。 高天連携を積極的に進め、生徒の学びに対する興味・意欲・関心を高める。	B	B	

生徒指導 特別活動	部活動、特別活動や体験学習を通じて、規範意識を確立させ、積極的に社会へ貢献する意欲・態度を養成する。	部活動加入率を男子60%、女子40%以上に引き上げ、次年度以降を見据えて、中学生や保護者から認知される部活動へと活性化を図り、内容を広報するとともに競技力の向上を図る。また、地域中学校との交流をさらに強化し、地域密着型の部活動としての特色を発信する。地域や各関係機関主催の各種行事に生徒会やキャリア系クラスを中心に積極的に参加させる。地域の各種ボランティア活動への参加を全校的な取り組みへと展開する。	B	A	部活動加入率は4月段階において、ややUPしたが、女子の部活離れが相変わらず続いている。特にI類文系、総合コースにこの傾向が強い。各種地域行事やイベント企画などに対するボランティア活動においては、積極的に推進できている。また、醍醐寺との連携で今年度、新たに参画する地域行事にも貢献していく予定である。「身だしなみ指導」においては、女子のスカート丈の遵守、男子のシャツ出しの矯正など成果をあげているが、頭髮違反を含め極少数の違反生徒への啓発と指導の徹底が課題である。登校時に比べ、校内、下校時の身だしなみを徹底させていく工夫が必要である。生徒会活動は充実しているが、単に過去の継続だけではなく、取り組み方や、内容の向上、企画参加意識の向上など指導面を充実させる必要がある。問題行動に対しての粘り強くタイミングを逸しない生徒指導の継続は、さらに推進・強化しなければならない。ネット問題に対する指導や正しい人権意識の向上などが喫緊の課題である。	
	基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識を育成する。	立門指導、校内・校外巡回指導や身だしなみ指導の効率化と効果向上を図る。「東稜ハイスクール・ハンドブック」の活用と実践を充実させる。駐輪・交通安全指導週間や遅刻指導を通じて、登下校時の自転車通学におけるマナーの向上や授業規律の確保、基本的な生活習慣の確立を図る。学年部との連携のうえ、各学年生徒の特徴を把握するとともに学年アッセンブリー等を活用して、タイミングを逸しない指導（啓発・呼びかけ等）を徹底する。	B			B
	深い信頼関係に基づく人間関係を育成し、明るく他者を思いやれる望ましい集団を構築させる。	生徒会活動に助言・指導・支援をして各種委員会を積極的に活動させ、質の向上を図る。新入生歓迎会、文化祭、体育祭、生徒総会等の一層の内容の充実と企画提示を図る。	B			B
進路指導	生徒の3年間を見通した進路指導・進路学習を行う。	計画的に説明会、見学会、体験学習等を実施し、進路意識の向上を図る。あらゆる機会を捉えて、生徒の人間力、将来の社会人としてのマナーの向上を図る。	A	B	生徒の進路意識を向上させるとともに、将来を見据えた進路指導をするため、学年部と協力して様々な企画を実施中である。2年次末より継続して就職講座を実施するなど丁寧な就職指導を展開している。また、1年学習合宿、2年サマーセミナー、15日間Ⅲ期にわたる3年夏季進学補習などにより学力の向上を図っている。京都文教短期大学との高大連携事業を今年度2年生も開始している。	
	就職希望者への指導の一層の充実を図る。	就職対策講座の充実を図るとともに、社会常識を身につける指導の徹底を図る。企業訪問等を積極的に行う。	B			B
	進学希望者へのきめの細かい指導の一層の充実を図る。	実力テスト等の結果を分析し、教科・学年の学習指導に役立てる。進路補習、学習合宿等を行い、学力の伸長を図る。	B			B

人権教育	あらゆる教育活動を通して、基本的 人権を尊重する精神の涵養を図る。	学校や地域の実態に即した人権教育推進計画を年度当初に策定し、全校で推進する。また日常的に計画の実施状況を点検、評価を行い、改善を図りながらの実践を推進する。	A	A	B	人権教育会議を計画的に実施することができていない。 ただし、学年部・教務部との連携のもと年間を見通した人権教育を推進している。実施後のアンケート内容については、工夫を図り、次年度へ繋げられるものとした。また、本年度の実践をベースとしながら、京都府の過去の同和教育の手法を参考に、来年度の人権教育計画を早期に策定して、一層の充実を図りたい。
	自己と他者を尊重する豊かな感性を 育み、実践できる態度を育成する。	人権教育会議で人権学習や講演会の企画・立案を行い、関係分掌、教科、当該学年と連携して実施する。 人権を考えるためのアンケートを実施し、その分析を通してよりよい人権学習を構築する。人権学習後に感想文を書かせて、学習効果を検証しながら改善を図る。	C	B		
健康・安全 教育	交通安全や薬物に対しての正しい知識と理解を深め、規範意識の向上と 道徳観を育成する。	1年生対象に「薬物乱用防止講演会」「非行防止講演会」「情報モラル教育」を実施する。 山科署交通安全課、醍醐十校区自治連合会、PTAとの連携を密にし、登下校時の交通安全指導(特に自転車走行のルール遵守)を推進する。 自転車安全走行講習会を実施する。	A	B	B	山科署生活安全課のスクールサポーターを講師に招き、9月中旬に薬物乱用・非行防止講演会を1年生に実施した。 登校時の自転車安全走行指導については、年間を通して計画・実践しており一定の成果を上げているが、さらなる啓発活動が必要である。府警本部、山科警察署・PTAとの連携を一層強化したい。問題行動としてのきっかけにもなっており、京都府ネットパトロールでも、急増しているネット社会での在り方や性意識調査などを通して、自己管理の能力の向上と教職員間の共通理解をさらに図る必要がある。 毎月教育支援会議などで学年の協力を得て生徒の情報を收拾し、職員会議などで共有した。保健部と担任を中心に支援チームを作ったり、地域支援センターと連携したり、医療機関の情報を得るなどして、情報の收拾や支援に努めた。また、啓発プリントを随時発行して、生徒や教職員に社会的スキルを啓発した。文化祭においては、保健委員会が身体能力測定や物づくりなどの活動をした。
	支援を必要とする生徒に対する情報を 教職員が共有し、協力して具体的 な支援ができる体制を作る。	教育支援会議で生徒の情報を掌握し、職員会議などで共有する。 教職員によるチームや外部機関との連携によって、個々の生徒に応じた支援をする。 教育相談や特別支援についての理解を啓発する。	C	A	A	
	生徒が自分自身の身体や心について の理解を深め、自己管理できる能力 をつけられるよう働きかける。	性や社会的スキルに関する知識を持ち、実際に対応できる力を身につけさせる。 講演会だけでなく、保健だよりや掲示物を通じて、生徒の意識を啓発する。 相談や支援を必要とする生徒に対して個別に粘り強く指導する。 委員会活動を充実させ、生徒が自主的に取り組む仕掛けを作る。	A	A	A	

学校図書館	生徒の読書意欲の向上を推進する図書館教育の一層の充実を図る。	読書推進のため、図書館まつり、移動図書館等様々な取り組みを計画・実施する。-----図書館検索システムの活用を推進し、生徒個々への読書相談を充実させる。-----朝読書検討会議を中心に、朝読書（おは読）の取り組みをさらに充実させる。-----自主的・積極的な図書委員会活動を進める。	A	B	B	読書推進につなげるべく、広報活動の一環として、図書委員会活動を推進させ「図書館まつり」などを計画し、「図書館だより」や「本と私」等を継続して発行している。 また、実務的にはコンピュータによる貸出・返却業務も軌道に乗り、生徒への読書相談も充実してきた。 さらに、読書活動推進のためには、「おはよう読書」についても、継続して手を入れ、工夫した取組を推進したい。 授業における図書館・視聴覚教室活用の機会もさらに充実させたい。 芸術文化団体鑑賞の新しいかたちづくりに向け「検討会議」を開催し、意見集約に努めている。
	視聴覚教育の充実を図る。	視聴覚機器の充実と更新を進め、授業等での利用の調整や学習支援の充実を図る。	B	B		
	芸術・文化鑑賞教育の充実を図る。	優れた芸術・文化活動に触れる機会を促進するため、芸術文化団体鑑賞について実施内容・方法を検討する。	A	A		
学習環境安全管理	学習環境や生活環境を整え、生徒の美化・衛生意識を向上させる。	日常の清掃活動に取む意識を高める。-----校内に姿見を設置して、自己点検する意識を育てる。-----花壇を充実させ、学校に安らぎの空間を作る。	B	A	A	美化委員が清掃点検活動を継続している。職員室前に姿見を2面設置した。 総務企画部と協力して玄関及びオープンカット付近に花壇を設置し管理した。
施設・設備管理	安心・安全で教育効果向上に繋がる施設・設備環境の維持・管理に努める。	生徒・教職員の情報交換連携と巡回等により破損・危険箇所の早期発見・早期対応体制を推進する。-----効率的な予算執行により教育環境の改善を更に押し進める。	A	B	B	破損箇所については、発見者からの連絡を受け、生徒指導部をはじめ、各関係者との連携のもと、できる限り速やかに対応している。予算執行については、校内執行と本庁執行に分け、対応している。
情報・文書管理	適正な文書管理による情報管理体制を推進する。	文書の保管・廃棄など校内文書の適正な管理を通じ、より確実な学校情報の管理体制を確保する。	A	A	A	校内文書の総合的な整理において、PCデータ管理等昨年度11月から、具体的な改善に向けて取組み、管理面での成果を上げていく。
修（就）学支援	修（就）学機会保障のための支援策を充実させ、保護者への情報提供を促進する。	在学中や卒業後の経済的不安を軽減し、修（就）学機会の確保を押し進めるための支援策を広く紹介することにより、希望進路の実現を援助する。	A	A	A	高等学校等修学資金が全生徒の15%以上、日本学生支援機構予約奨学金が3年生の60%強の利用がある。支援策の成果だと考える。

家庭・地域 社会との連携	活発な広報活動や情報発信を行うとともに、次年度以降に向けて、本校の特色ある様々な教育活動と未来像を発信するための企画を充実させる。	東稜だより、学校案内パンフレット、ポスター等を発行し、本校の魅力をアピールすることにより、生徒に選ばれる学校としての広報を強化する。ホームページやお知らせメールを通して、保護者や地域への情報発信を行うとともに、その内容を、各分掌、教科等と連携を図りながら着実に進めていく。	A	B	新しい学校紹介パンフレットの作成や学校説明会における生徒ボランティアスタッフの事前・事後指導など、意欲的に取り組んでいる。HPの更新やお知らせメールの活用などタイミングを逸することなく活用し、学校行事等の情報を発信するべく努力している。PTA活動では、会報誌などの作成に関わり、誌面工夫など成果を残せているが、保護者間交流に対する働きかけがやや弱いことが課題である。 各地域行事への事前会議や当日の関わり等は、副校長、生徒指導部との連携のもと広報活動等を進めている。各取組における写真等、全ての記録を残して有効活用できている。今後も一層の工夫と充実を図りたい。
	PTA活動と連携を図る。	PTA活動に積極的に関わり、社会見学、文化講座、会報誌などの取り組みを実りあるものとする。また、保護者の悩み相談など、保護者間の交流を図り、開かれたPTA活動を実施する。	B	B	
	地域に信頼される学校として、各種の地域行事、関連行事などへの積極的な参加を推進する。	地域との交流を積極的、継続的に実践し、「人間力」を育むキャリア教育の一翼を担う。また、ボランティア活動など、地域への貢献・地域に寄与する学校としての取組を充実させる。	A	A	
学 年	【第1学年】 自他の命を大切に、高校生としての自覚を持ち、自立と社会貢献ができるように、進路を見据えて目標を持った学校生活を送らせる。	挨拶の励行、言葉遣い、服装などの基本的な生活習慣を確立させる。学習環境の整備、家庭学習習慣の確立を図り、基礎学力を向上させる。自己認識を深めさせ、自己の興味・関心を発見させる。学校行事を通して、自主的で規律ある集団をつくり、愛校心を持たせる。	B	B	指導に対して素直に受け止める生徒が増えているが、悩みを抱え人とのコミュニケーションが苦手な生徒も増えている。継続した個別指導を通して、目標を確立させ、次年度へ繋げたい。各集会や行事において団体行動が速やかに行え、ベル着も定着している。進路学習、カタリ場などを通して、自己認識を深めさせたい。また、文化祭においては、各クラス創意工夫とまとまりを見せ、全体でもしっかりと取り組めた。文化祭での経験を活かしながら研修旅行（スキー研修）に向けたクラスの団結や交流を深めたい。
	【第2学年】 学校の中核の学年としてのさらなる自覚と豊かな人間性を備えた高校生活を送らせる。また、進路指導の確立に向けて計画的な指導をする。	挨拶、言葉遣い、服装など基本的な生活習慣を確立させる。授業に集中させ、家庭学習の習慣をつけることで、学力の向上を図る。進路学習などを通じ、自分の将来を真剣に考え、具体的な進路目標を立てさせる。学校行事を通して、自主的で規律ある集団をつくり、愛校心と社会性を育てる。	B	B	
	【第3学年】 最終学年として自覚を持たせ、進路実現に向けて充実した高校生活を送らせる。	挨拶や言葉遣いなど、社会で必要なマナーを身につけさせる。授業を大切に取組み、学力の充実を目指す。個人面談を密にして個に応じた進路指導を行い進路の実現を図る。文化祭の演劇発表、自主活動の充実にも努める。	B	B	
			B	A	



